

ダイバーシティ事業 PI養成事前調査プログラム
報告書

報告日:2019年3月30日

派遣者所属名	農学研究科
派遣者氏名	松尾 栄子
<p>2019年3月1日(金)から3月9日(土)まで、米国 Mayo Clinic(ローチェスタ, MN)にて、海老原秀喜准教授と、「アルボウイルスの外殻タンパク質構造の比較解析」に関する共同研究の内合わせおよび、研究費獲得のための申請書作成について話し合った。</p> <p>まず、共同研究を行うにあたって、節足動物を媒介して感染するアルボウイルスのうち、どのアルボウイルスに注目して研究を行うかを決定するために、これまでの研究内容や、最近の感染症について情報交換を行った。その結果、外殻タンパク質の構造だけでなく、ウイルスが感染細胞内で発現する非構造タンパク質にも注目して研究を進めることになった。また、研究材料として、分節型の二本鎖RNAをゲノムとして持ち、エンベロープタンパク質を持たないオルビウイルスと、分節型のマイナス鎖RNAをゲノムとして持ち、エンベロープタンパク質を持つフレボウイルスを用いる事にした。</p> <p>次に、研究を遂行するための研究組織について話し合った。派遣者と海老原准教授の研究グループだけでなく、Bioinformaticsの専門家でもある、北海道大学獣医学部講師である松野啓太先生にも研究グループに参画していただき、スカイプを用いて、3人で研究の方向性について話し合った。その結果、媒介昆虫である、蚊やブユ、ダニの専門家、もしくは免疫学の専門家が必要となり、研究組織に参画可能な研究者の候補について話し合った。</p> <p>最後に、Mayo Clinic内の研究施設について、案内を受けた。特に、本共同研究で主に使用する予定であるバイオセーフティレベル3の施設(BSL3)での、簡易訓練を受けた。さらに、1ヶ月以上の滞在にあたっての、住居、交通手段、ビザ関連について調べた。</p> <p>今回のPI養成事前調査によって、次年度以降の共同研究遂行のための必要条件を確認することができた。</p>	

海外派遣終了後の進捗状況(2021 年度 3 月現在)

R2 年度は、再び国際共同研究を遂行するための外部資金(科研費国際共同強化 B)に応募したが、不採択 A という結果に終わった。現在別の外部資金獲得のため共同研究者と打ち合わせ中である。

海外派遣終了後の進捗状況(2022 年 3 月現在)

R3 年度は、再び国際共同研究を遂行するための外部資金(科研費国際共同強化 B など)へ応募をどうするかを受け入れ先の研究者(メイヨークリニック、海老原先生)と話し合った。しかし、コロナ禍のため受け入れ先の業務が膨大となり、共同研究の遂行は困難と判断した。R4 年度以降の研究計画について話し合いを進めていたが、海老原先生に国内研究所への移動の話が持ち上がり、計画中の研究を「国際共同研究」として遂行することはなくなった。

派遣先の研究者との「国策共同研究」はなくなったが、英国の研究者との国際共同研究は現在も遂行中である。また、イスラエルの研究者と新たな国際共同を計画中である。